

岐阜県立岐阜農林高等学校

～生徒が“先生”、生産者と共に育むGAP！～

<基本情報>

所在地:岐阜県本巣郡北方町
代表:校長 田中 治
全校生徒:128名(R2.〇月現在)
うちGAP対応者 〇〇名



岐阜県立岐阜農林高等学校
流通科学科の生徒

<経営概要>

経営面積:2.4ha
認証品目:水稲

<GAPの取組状況>

「地域の食・農・環境を持続的に発展できる人材育成の研究」の一環として、カリキュラムにGAPを取り入れるとともに、認証取得に向けた取組を開始。

平成29年 水稲でGAPの取組を開始
平成30年11月 水稲でGLOBALG.A.P.の認証を取得
令和元年11月 柿など果樹にもGAPの取組を拡大し、JGAPの認証を取得

<人材育成>

GAPの取組・学習、実践することにより「再現できる農業」の実現を目指す。

GLOBALG.A.P.の認証審査では、同校の流通科学科の生徒が中心となり対応。

- ① 教育機関としては、県内の農業科教員を集めた研修会を開催するほか、JGAP指導員及びASIAGAP指導員養成講習会のために同校を会場として提供するとともに農場等の見学会を実施。
- ② 地域での取組として、生徒がアドバイザーとして地域農家のGAP認証の取得を支援。農場内の点検手法として「GAPトライージ」を独自に考案。本手法を活用し、農家の方にわかりやすい支援を実施。



生徒を中心とした審査対応の様子

《GAPトライージ》

改善点の緊急度に応じて、4色のカードを改善ポイントに貼り付けることで、農場の状況を見える化。実際の模擬審査の際に、農薬保管庫で「ラベルの説明書きが読める程度の照明を必要とする」という適合基準を満たしていなかったため、薬品棚に赤のカードを付け、カードには適合基準リストの番号と照明設備の設置を求めるメモを記した。



地域農家への訪問の様子

<GAPの普及に向けた取組・効果>

- ・岐阜県瑞穂市と連携し、同市発祥の富有柿を生かすため、柿のJGAP団体認証の取得に向けた支援に取り組んでいる。
- ・地域へのアドバイザー活動を今後も継続し、団体認証の取得支援に取り組む予定。